



岩松小学校だより



学校だより 第23号

令和8年10月9日発行

発行者 校長 真子靖弘

3年生から育む「自分ごと」の心

9/11(金)、第2回代表委員会が行われ、「最高の運動会をつくるために自分たちでできること」について話し合いました。代表委員会とは、学校生活をより楽しく豊かにするために、児童代表が課題の解決に向けて話し合う自治的な活動です。岩松小では、この代表委員会の進め方にも新たな「挑戦」を取り入れています。

3～6年生が参加するとともに、ICTを使って児童会室と各教室を接続。教室にいる子どもたちもチャットを通してリアルタイムで意見を届けられる仕組みをつくりました。この挑戦の目的は、下学年の頃から「自分たちも学校の一員であり、自分たちの手でよりよい学校をつくる」という意識を育むことにあります。このような体験の積み重ねが、将来、多様な人と協働しながら地域の課題を自分のこととして捉え、主体的に解決に関わっていく力へとつながると考えています。最終的に次のような大会スローガンが決まりました。

＜令和8年度 岩松小学校運動会スローガン＞

一致団結して 最後まであきらめずに

元気いっぱい がんばろう



あゆみを振り返る秋～通知表の配布にあたって～

10/9(金)、前期(4/1～10/13)の成果をまとめた通知表をお渡しいたしました。通知表は、結果そのもの以上に「それまでに重ねてきた努力」を振り返るためのものです。ぜひご家庭で「ここをよく頑張ったね」「次はこんなことに挑戦してみようか」と、これまでの過程を温かく認め合い、後期への目標を語り合うきっかけにしていただければ幸いです。



※出席日数につきましては、処理の都合上 9/30 までの集計となっております(10/1～9 分は後期分に反映されます)。

本物に学ぶ～防災・貿易・伝統工芸～

教室での学びと現地を訪れての体験が子どもたちの学びに相乗効果を及ぼします。

9/28(月)、社会科見学に4年生は佐賀広域消防局内にある防災学習広場へ、5年生は伊万里港へ出かけました。4年生は地震や風水害の体験をし、社会科の防災学習として「公助」「共助」「自助」の3つの視点を中心に、地域や行政の取り組みと自分たちの備えを学びます。5年生は輸出入に使われているコンテナを見学し、学習テーマである「貿易」において、日本が外国とどのようなものを売り買いし、それが私たちの暮らしや工業生産をどのように支えているかを学びます。



また、10/5(月)には6年生が名尾手すき和紙工房へ出かけ、紙すき体験を行いました。かつて岩松地区でも、江戸時代から明治・大正期にかけて農家の副業として手すき和紙が行われていましたが、近代化や洋紙の普及とともに、需要の減少とともに廃絶した歴史があります。学校の南には跡地の記念碑があります。



自分も相手も大切に

10/6(火)、人権教室を開催しました。下学年は宮副先生が絵本『どうぞのいす』を活用し、会ったことのない「次の誰か」を想像して分かち合う連鎖から、他者を気遣う心を育みました。上学年は江頭教頭先生が、運動会でのチームプレーを通して、互いを尊重し合う大切さを説きました。

古賀木材様より図書と本棚のご寄贈

10/1(木)、古賀木材様より本校へ図書 36 冊と本棚をご寄贈いただきました。子どもたちの読書活動や豊かな学びのために、大切に活用させていただきます。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

